

2006年度 ゆきとどいた教育をすすめる

全国3000万署名・推進ニュース NO. 28

発行日: 2006年12月18日 発行: 全教・日高教・教組共闘

集約集会ひらく 全国各地から450名が参加！

11日に、第18回「ゆきとどいた教育をすすめる全国3000万署名集約集会」が開催されました。集会には、北海道から九州までの450名の父母・教職員、そして生徒が参加しました。

オープニングでは、集約集会の前日に行われた「アイ ラブ 私学 銀座パレード」をビデオで紹介しました。東京の銀座で行われたパレードには、私立高校の生徒と父母、教職員2100人（テレビ東京ニュース2500人と報道）が参加し、「私学助成の増額で教育格差をなくそう」と訴えました。

◆感想 ○福島県 教職員 ・高校生のパレードの様子には本当に励まされました。私の働いている私学にも働きかけていこう！と強く思いました。

○京都府 父母 ・（わが子と同じ）高校生がしっかりがんばっているのが素敵でした。

集会は、全国父母懇・すすめる会連絡会の飯沼代表のあいさつで始まりました。そして、主催者あいさつは、3000万署名の呼びかけ人のお一人の三輪定宣氏。三輪氏は、18年間で3億5600万筆の署名を集めてきた運動が、国の教育費削減に歯止めをかけてきたと、具体的な国の予算を示しながら、強調され、さらに政府・与党は教育基本法を改悪し、教育行政の教育条件整備の義務づけを抜き去ろうとしていると指摘し、改悪を阻止するよう呼びかけられました。

「生徒・父母・教職員からの発言」では、6組の方が発表されました。北海道の北星学園女子高校の生徒は、生徒会授業料安定委員会が呼びかけ、600名の全生徒が参加し、札幌市の大通りで2回の街頭署名を行うなどのとりくみで12万筆の署名を集めたと報告しました。また、福岡から毎年30万筆以上を集約してきた署名運動、大阪から就学援助認定基準改悪反対のとりくみ、長野から高校統廃合反対の運動などが報告されました。

◆感想 ○東京都 教職員 ・高校生や岡山の青年部の話に元気が出ました。教育基本法も含めて、まだやるべきことがあることがわかりました。最後まで力を抜かずがんばります。

○大阪府 父母 ・各団体からの報告には例年になく緊迫した熱いものを感じました。どの報告ももっと詳しく聞きたい内容でした。特に生徒や若い先生のがんばりには大いに励まされました。

その後「今年度の運動の報告」を全国私教連の永島書記長が行いました。永島氏は、今年度の3000万署名の特徴を、第一に各県で高校統廃合や私学助成問題で高校生が活躍したこと、第二に教職員の純減の攻撃、私学助成削減の攻撃のなかで、各県での署名運動と中央での運動が一体となって、それに歯止めをかけるものとしてとりくまれたこと、第三に教育基本法改悪阻止のたたかいと一体にとりくまれたこと、と報告しました。

昨年の集約集会を上回る、7,676,001筆！

報告後、各都道府県の代表が集約した署名数を書いたパネルを持って登壇し、各都道府県の集約数と、とりくみの一言アピールを行いました。各県からの発表の後、実行委員会より現段階での署名集約数が報告されました。その数は、昨年の11月25日に行われた集約集会での645万筆を上回る7,676,001筆でした。

その後、「ゆきとどいた教育をすすめる石川の会」の角田さんの提案で集会アピールを採択し、全教の石元委員長が閉会のあいさつを行いました。

教育基本法改悪阻止のとりくみ、大変ご苦労様でした。引き続き、子どもたちにゆきとどいた教育を保障するため、父母・教職員、地域住民が力を合わせ、頑張りましょう。

全国 3000 万署名は、1 月下旬から始まる通常国会に提出します。各県で昨年の署名数を上回るよう、引き続きとりくみましょう！

